

「みやこ杉木 集成板」ができるまで

原木

みやこ杉木（京都市域産木材）とは、京都市内の山林から生産された原木のことをいいます。京都市木材地産表示制度において、他の産地の原木と混じらないように分別管理するよう定められています。



製材・乾燥

原木から材料にするために製材を行います。製材機で大きく製材した後、小割機で細かく製材したり、耳の部分（樹皮を含む部分）を除去します。

製材した材料は乾燥機で乾燥させた後、貼り付けしやすいようにプレーナーで表面をきれいにします。

縦接ぎ

材料の中には、死に節・割れ・腐りなどの欠点が含まれているものがあります。これらを含む材料は欠点のない部分を切り取り、縦接ぎをして再び長い材料を作り出します。少しでも捨てる部分が少なくなるようにしています。



横接ぎ・仕上げ

長い材料を横に貼り合せて大きな板を作り出します。貼り合せた際の材同士の細かい段差や糊のはみ出しとうがあるため、最後にワイドサンダーにより表面をきれいに仕上げれば完成です。

集成板は、使用する材料によってランダムに色や木目が変わっていくのが特徴です。